

(1) 第3回会議

■ 令和7年度（2025年度）北海道美唄養護学校 第3回学校運営協議会

○ 日時 令和8年（2026年）3月2日（木） 10時00分～11時15分

場所 北海道美唄養護学校 会議室

事務局出席：事務長・教頭・各学部主事・寮務主任

ア 学校評価について

- ・ 教職員自己評価、保護者評価とも「小学部から高等部までの一貫性やつながり」が低い評価となっている。コロナ禍の三密を避ける活動に移行し、それぞれの学部で工夫し充実してきた活動からアフターコロナへの転換が不十分であったことが考えられる。従前から行ってきた分掌組織が学部間の調整を再構築させ、推進を図る必要がある。
- ・ 保護者評価の回答率が低い。急な改善は難しいかもしれないが、普段からの情報発信などで活性化を図る。
- ・ 小学部の保護者評価が低いのは、学校全体が見えていないからではないか。
- ・ 学校が頑張るだけでなく、保護者も一緒に頑張れるようにすることが望ましい。保護者が無関心だと児童生徒の社会性が育たないなどのしわ寄せが及んでしまう怖さをはらんでいる。
- ・ 児童生徒の長い生涯を家庭だけでは支えられない。未来も見据えて「親亡き後」から「地域で支える」という発想の転換が必要。

イ 新学校教育目標について

- ・ 児童生徒と保護者、教職員から広くキーワードを募り、案を作った。
「幸せな未来を見つける・支える・つなぐ」
- ・ 「支える」の部分を児童生徒、保護者、教職員、地域が認め合う存在になってほしいという願いを込めて、「支え合う」がふさわしいのかと考えている。
- ・ あくまで「児童生徒が主語」である理解できるよう短く表現している。

ウ 令和8年度学校経営計画（案）について

- ・ 開校五十周年目の節目を迎えるにあたって、5～10年後の美唄養護学校と次期学習指導要領を見据え、自ら考え行動できる、その子に応じた「探求的な学習の充実・推進」を挙げた。

エ 情報交流

- ・ 美唄市の指定避難所に指定されていることもあり、地域との関わりを深めたい。11月1日の美唄市教育の日事業の参観日に何かできないか。
- ・ 地域の方に来てもらうことをスタートではなく、ゴールとして考える。まずは、学校や学校の取組を知ってもらうことから始める。
- ・ 「集落支援員」「民生（児童）委員」との連携を模索。

○ 校長謝辞・閉会